

# 大会規定

- 1 試合はトーナメント方式とする。（第3位決定戦を実施する。）
- 2 試合は5イニング制。コールドゲームは3イニング以降10点差とする。  
※ 決勝戦は10点差コールドゲームを適用しない。
- 3 雨天時のコールドゲームは、3イニング終了時点で試合成立とする。  
（ただし、後攻チームが勝っている場合は、3回表先攻チームの攻撃終了時点で試合成立。）
- 4 試合時間は70分とし、60分を超えた時点で次のイニングには入らない。
- 5 5イニング終了時、または60分を超えてイニングが終了した時点で同点の場合はタイブレーク制を採用する。  
※ 攻撃は、0アウトランナー1、2塁から開始し、前イニングからの継続打順で、前イニングの最終打者を1塁走者、その前の打者を2塁ランナーとする。  
※ 1イニング終了時、得点が多いチームを勝者とし、勝敗が決しないときは最長2イニングまで実施する。  
※ タイブレーク制で勝敗が決しないときには、抽選で勝者を決定する。（決勝戦はタイブレーク制で決す
- 6 投手の投球制限については、1日60球以内とする。  
試合中に規定投球数に達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。  
タイブレークになった場合、1日規定投球数以内で投球できる。  
牽制球や送球とみなされるものは投球数としない。  
投球数の管理は大会本部が管理する。
- 7 ボークについては、注意・指導として、ボーク直前の状態に戻してプレーを再開する。
- 8 投球練習は初回5球、以降は3球とする。ただし、投手交代時は5球とする。
- 9 試合中のブルペンでの投球練習は、コーチがキャッチャーを行い実施する。
- 10 シートノックは当該チームの各試合日の1試合目のみ実施する。
- 11 キャッチャーは必ずファウルカップを着用し、試合前に審判員に提出し確認を受ける。
- 12 グラウンド内に控え選手が入るときには、必ずヘルメットを着用する。
- 13 試合球は公認J号ボールを使用する。（各チーム試合球を2個提出する。）
- 14 抗議は監督及び当該プレーヤーのみとする。
- 15 投球を受けた捕手は、その場から速やかに投手に返球し、また、捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板に触れて投球姿勢をとる。
- 16 攻守交代時はベンチを離れて速やかに守備につく等、試合のスピードアップに努める。
- 17 その他、野球ルールについては、公認野球規則及び全日本軟式野球連盟競技者必携・学童野球に関する事項により行う。